自動車の研究、南極で使う装置の実験…　しばれが社会に役立つ

南極・昭和基地に圧雪滑走路造成
"しばれの里"で実験開始
次期越冬隊にマニュアルを
陸別

2000年　2月12日付

国立極地研
陸別の実験 大きな意味
「南極大陸の氷を掘る！」発刊
しばれ研・斉藤さんの話も

2003年　1月7日付

陸別の研究 南極で開花
町しばれ技術開発研究所が設けた実験滑走路で雪の硬さを測定する雪氷滑走路検討委員会のメンバー
国立極地研
しばれ研
滑走路造成具体化へ

2003年　2月3日付

国立極地研と航空宇宙技術研
厳寒生かした実験開始
陸別
新型ドリルで氷掘削
排ガスから

2002年　1月31日付

長年、自動車や部品メーカーの試験をサポートしている濱田さん

新たな圧雪技術も
南極に雪上滑走路造成　「陸別実験」スタート

2007年　2月2日付

陸別の寒さ日本一証明
町職員空井さんら10年間気温解析
学会誌に論文掲載

2017年　1月11日付

《記事は十勝毎日新聞社提供》

「日本一寒いまち」の陸別町。冬の厳しい冷え込みをプラスにとらえ、陸別の人たちは、まちづくりにいかしています。

約40年前から寒冷地における自動車試験

北海道の方言で、肌を刺すような厳しい冷え込みを「しばれる」と言う。冬の陸別町は氷点下30℃を下回ることも珍しくはない。日本一寒いまち"だ。しばれをマイナスととらえず、逆手にとりまちづくりにいかしている。

陸別町では寒冷地における自動車の試験が約40年前から行われている。町内の浜田旅館には、自動車や自動車部品メーカーの研究者が宿泊し、町内に造成された氷結路で連日、テストを繰り返していた。同旅館社長の濱田始さんは「氷結路造成など、試験をサポートしていました。そのころ、氷結路と言えば湖や沼に作っていましたが、結氷の時期や天候に左右され、スムーズにテストできないことも多かったようです」と、当時を振り返る。

スケートリンクづくりの技術をいかして氷結路

そういった状況の中、濱田さんらは、スケートリンクづくりの技術を生かし、延長200mの氷結路を造成した。「陸（おか）にテストコースとして氷結路を造成したのは、陸別が初めてだと思う」と濱田さん。1985（昭和60）年ころ、濱田さんは冬期の試験をサポートする「陸別寒冷地テストサービス」をつくり、研究者の受け入れ、試験サポートを行った。

1991年（平成3）年には、日産のテストコースが開設された。先だって1990年（平成2）年、氷結路造成の技術支援などを目的に、建設業の若手や陸別寒冷地テストサービスは「陸別町しばれ技術開発研究所」を発足させ、サポート態勢を整えた。

次々と学術研究が実施され、成果が社会に還元される

自動車関連の試験にとどまらず、1994年（平成6）からは、国立極地研究所が南極での氷掘削ドリルの実験を実施。1998年（平成10）年から、南極での滑走路造成を想定した試験を繰り返した。2002年（平成14）に独立行政法人航空宇宙技術研究所がジェットエンジンの排ガスの氷晶を研究するなど、続々と研究・試験が行われた。「しばれ」は、さまざまな学術研究に役立ち、成果が社会に還元されている。